

2021年7月6日

第91回 定時株主総会における決議結果に関するお知らせ
及び今後の当社方針について

富士興産株式会社
代表取締役社長 保谷 尚登

2021年6月24日に開催いたしました当社第91回定時株主総会(以下「本総会」といいます。)の結果につきまして、事前の議決権行使及び当日の投票による多数の賛成により、全ての議案が、原案どおり承認可決されましたのでお知らせいたします。

当社提案に対し賛同いただきました多くの株主の皆様へ、心より御礼申し上げます。

当社は、アスリード・ストラテジック・バリュー・ファンド及びアスリード・グロース・インパクト・ファンドの当社株式を対象とする公開買付け(以下「本公開買付け」といいます。)が、当社の企業価値ひいては株主の皆様共同の利益(以下「当社価値等」といいます。)の最大化を妨げるものであると判断し、本公開買付けに対し反対の意見を表明いたしました。そして、本公開買付けがなされることを受け入れるか否かの判断につき、株主の皆様の意思を確認するために、本総会に第3号議案及び第4号議案を上程いたしました*。

※詳細につきましては、次の当社プレスリリースをご参照ください。

- ・2021年5月24日付けプレスリリース
「アスリード・ストラテジック・バリュー・ファンド及びアスリード・グロース・インパクト・ファンドによる当社株式を対象とする公開買付けを受けた当社の対応方針(既に具体化している公開買付けを含む大規模買付け行為への買収防衛策)に関するお知らせ」
- ・2021年5月28日付けプレスリリース
「アスリード・ストラテジック・バリュー・ファンド及びアスリード・グロース・インパクト・ファンドによる当社株式に対する公開買付けに関する意見表明(反対)及び株主意思確認を当社第91回定時株主総会で行うことのお知らせ」

かかる状況下、本総会において上述のとおり、同2議案が承認可決されたことは、本公開買付けが当社価値等の最大化を妨げるものであると株主の皆様がご判断いただいたもの、すなわち本公開買付けに反対する旨の当社意見について、多数のご賛同いただいたものと当社は考えております。

また、当社特約店26社で組織される特約店会(以下「フックール会」といいます。)から、本公開買付けに反対する旨のご意見*をいただいております。さらに当社従業員115名を対象に行

ったアンケートにおいて103名からの回答があり、その全てが本公開買付けに反対する旨の回答でありました。

※別紙は、フックール会からの声明文です。

当社は、本総会における株主の皆様のご判断、当社従業員、取引先の皆様からのご意見を踏まえ、当社の長期ビジョン実現に向けて中期経営計画に取り組む所存であり、当社に関わる全ての方々とともに築き上げてきた良好な関係を発展させながら、さらなる企業価値向上に努めて参ります。

なお、本公開買付けは、2021年7月9日までをその期間としておりますが、株主の皆様におかれましては、本公開買付けに応募されないようお願い申し上げますとともに、既に本公開買付けに応募されている場合、速やかに本公開買付けに係る契約の解除を行っていただきますよう、改めてお願い申し上げます。

以上

2021年6月24日

「アスリード・ストラテジック・バリューファンド及び
アスリード・グロース・インパクト・ファンドによる公開買付け」に関する声明

フッコール会
会長 平岡 顯



先般、富士興産株式会社（以下、「富士興産」）の株式に対し、アスリード・ストラテジック・バリューファンド及びアスリード・グロース・インパクト・ファンド（以下、「アスリード」）による富士興産の非公開化を目的とした公開買付け（以下、「本 TOB」）が発表されました。富士興産取締役会の同意が無い中で本 TOB が行われ、現在のような事態に至ったことは誠に残念であります。

我々、フッコール会は、これまで富士興産と信頼関係を築きながら前進して参りました。今回のような富士興産取締役会の同意が無い本 TOB は、これまで我々と富士興産とで築き上げてきた関係の基盤を壊すものであり、フッコール会として受け入れられないことを表明いたします。

フッコール会は、富士興産から石油製品の供給を受ける全国の特約店 26 社で構成され、昭和 42 年の設立以来、半世紀以上にわたり富士興産と歩みを共にしてきました。今回の本 TOB は、我々が目指している理念や方向性とは異なるものと捉えざるを得ず、賛同することはできないと考えております。

アスリードからは、富士興産の非公開化後の具体的な経営方針が示されておらず、「経営は引き続き富士興産経営陣に委ねることとし、また、現在の事業継続に必要な従業員の雇用は維持して頂きたいとの方針を有しており、富士興産経営陣と友好的な関係を築いていきたい」との考えを有しているとのことですが、我々のような取引先を含む全てのステークホルダーへの配慮は見当たらず、万が一、本 TOB が成立するようなことになれば、我々と富士興産との信頼関係が失われ、結果として雇用や労働条件など我々の働く環境にも重大な影響を及ぶことを懸念せざるを得ません。

一方で、富士興産の経営陣は、今後の富士興産の中長期的な企業価値向上に向けて、「次世代エネルギーの供給企業への構造転換」をスタートさせる新中期経営計画を策定しております。事業環境の変化への適切な対応から中長期の企業価値向上に向けて、富士興産の経営陣は、我々取引先含む全てのステークホルダーに配慮し、短期・中期・長期の連続的な計画の遂行に一意専心に取り組む覚悟も示されております。

以上の諸点を踏まえ、我々、フッコール会は、全てのステークホルダーを配慮しておらず、富士興産の企業価値向上に資さない本 TOB に対して、受け入れることはできないという姿勢を表明いたします。

以上